
仮面ライダー龍騎～混ぜり合う2つの世界～

asuka1419

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー龍騎〜混ざり合う2つの世界〜

【コード】

N3968X

【作者名】

asuka1419

【あらすじ】

神崎士郎の暴走により
合わさるはずのない世界が
合わさってしまった！
城戸たち龍騎の世界のライダーと
作者のオリジナルキャラたちが
織り成すストーリー。

説明（前書き）

これからよろしくお願いいたします！

説明

作者のオリジナルキャラの住む世界と

仮面ライダー龍騎の世界が合わさってしまった。

すべては神崎士郎が暴走したせいなのか？

今、一人の生徒と

その仲間たちの戦いが始まる。

キャラ崩壊するかもしれませんが。

毎週末に更新する予定です。

ライダーは今のところ

五人は出す予定です。

不満がある人は

戻るボタンを押してください。

基本的にオリジナルキャラと

城戸真司が活躍します。

ほかのライダーも出来る限りだします。

一番好きなライダーはリュウガです！

登場人物紹介（オリジナルキャラ）（前書き）

オリジナルキャラの説明です。

登場人物紹介（オリジナルキャラ）

春野飛鳥 Haruno Asuka (15歳)

朝日中学校3年生である

いつも窓から外を眺めている

ヒーローにあこがれる珍しい生徒

仮面ライダー龍騎に変身する

竜野飛鳥 Ryuno Asuka

???

海塔寺文武 Kaizozumi Humitake (15歳)

同じく朝日中学校3年生である

おっちょこちょいな男子生徒

馬鹿とよく思われるが（少し）頭はいい

仮面ライダーナイトに変身する

清川原月 Kiwahara Runa (15歳)

同じく朝日中学校3年生である

クールな男子生徒

少しナルシストなところあり

仮面ライダーゾルダに変身する

香春陽太 Koshun Yota

同じく朝日中学校3年生である

気が弱いがやさしいところがある

紅炎寺蓮によくいじられる

仮面ライダーに変身しないが

月のサポートをする（由良吾郎のような存在）

紅炎寺蓮 Koenziren (15歳)

同じく朝日中学校3年生である
わんぱくで熱血

何かあると必ず現れる

仮面ライダーに変身しないが

戦闘能力が高いためがんばればモンスター一体は倒せる

夜走鏡也 Yobasirikyo (15歳)

同じく朝日中学校3年生である

おとなしい男子生徒

じつは彼には秘密があり…

仮面ライダー王蛇に変身する

鳥鋼真悟 Tyokoshingo (15歳)

同じく朝日中学校3年生である

誰に対しても敬語である

なぜか3枚のコインを持ち歩いている

仮面ライダーライアに変身する

そのたもろもろ

登場人物紹介（オリジナルキャラ）（後書き）

実はこのオリジナルキャラ

約3名がある特撮ヒーローを

参考にしています。

誰かわかりますか？

登場人物紹介（龍騎の世界）（前書き）

龍騎の世界の登場人物です

登場人物紹介（龍騎の世界）

城戸真司

祭ごとには首を突っ込まないときがすまない人物
よく人からは馬鹿と思われる単純な人
しかし戦いをとめるために迷い
その末に「答え」を見つけた
仮面ライダー龍騎に変身する

秋山蓮

クールな男性

城戸真司とは仲がいい（？）

淡々と物を話す

酒を飲むと大変なことに…

仮面ライダーナイトに変身する

北岡秀一

スーパー弁護士

弁護される人は必ず無罪になるという

今回は由良吾郎がいないため

少し寂しい

仮面ライダーゾルダに変身する

浅倉威

凶悪脱獄犯

イライラを収めるためならなんだってする

今回は少々おとなしくしている

仮面ライダー王蛇に変身する

手塚海之

占い師

必ずあたと評判である

実際外れたことはほとんどない

仮面ライダーライアに変身する

神崎士郎

妹を助けるためにライダーバトルを起こした

今回の騒動の首謀者(？)

仮面ライダーオーデインに変身する

登場人物紹介（龍騎の世界）（後書き）

次から本編に入ります
お楽しみに！

？ 神崎の暴走と合わさる世界（前書き）

本編に入ります

？ 神崎の暴走と合わさる世界

ここはとあるミラーワールド…。

ここで神崎士郎が謎の暴走を起こしていた。

士郎「クフフフフフ…」

クヒヤーツハツハツハ！！！！」

城戸「待て！神崎！！！」

秋山「そこまでだ！」

鏡の向かいから聞こえた声。

その方向へ向く神崎。

高笑いをしている神崎を見てちょっと引く城戸たち。

浅倉「（なぜ俺まで）」

北岡「…はあ。」

手塚「…」

ここにいるのは城戸真司、秋山蓮、浅倉威、北岡秀一、手塚海之である。

神崎「おうおう、役に立たなくずライダー共かあ…！！！」

お前らにはほかの世界で戦ってもらう…！！！」

城戸「そんなことしたって、優衣ちゃんは喜ばない！」

神崎「うるさいうるさい！」

優衣は助ける…。俺の命に代えてもなあ…！！！」

秋山「（…本当にあの神崎士郎か？）」

神崎「戦え…戦ええええええええええ！！！」

城戸達の目の前に出てきた紫色のカーテン。

それは城戸達を包みこみ、消えた。

神崎「優衣…」

城戸達の運命は…

（（（

城戸「ひゃあああああああ!!」

秋山「うわあああああああ!？」

浅倉「…」

北岡「おわあああああああ!!」

手塚「ぬあああああああ!？」

渦巻く空間。

カーテンから開放されたかと思つたら、
こんな空間に放り出されていた。

そして、城戸達の行き先は…？

<とある道>

??「…誰だ、この人…。」

倒れている男性を見る人間。

??「とりあえず家に入れるか…。」

その男性こそ、『城戸真司』だった…。

？ 神崎の暴走と合わさる世界（後書き）

次の話では城戸が目を覚まします。

？ 城戸の目覚め、飛鳥の過去（前書き）

城戸が降り立った世界は？

？ 城戸の目覚め、飛鳥の過去

城戸「うう…。」

「俺は…一体…」

城戸が目覚めた場所、そこはベッドの上だった。

??「あ、起きました？」

声がした。その方向へ目をやると、一人の人間がいた。

城戸「君は…？」

飛鳥「俺は春野飛鳥って言います。」

家の前にあなたが倒れていたのびっくりしました。」

城戸「俺は城戸真司って言います！」

えっと、助けてくれてありがとう。」

…。

しばらくの沈黙。

それを打ち破ったのは飛鳥だった。

飛鳥「…それで。」

城戸「…？」

飛鳥「あなたは何者ですか？」

城戸「あ、そつか。それから説明しないとだめか。」

城戸は説明しようとした。

しかしできなかつた。自分の名前と、ポケットに入っているものの
使い方。

そして秋山蓮などのことしか覚えていなかったのだ。

城戸「何で俺倒れてたんだっけ…？」

飛鳥「記憶喪失ですか。」

うん…。

なら、ここに住みますか？ほっとくのもかわいそうですし。」

城戸「いいの？」

飛鳥「記憶が戻るまでですよ。」

働くところとかは、後で考えればいいし。」
すぐに決まった住む場所。

飛鳥「！もう7時か……。」

晩飯作らないと……。」

城戸「俺が作るよ！」

飛鳥「え！？でも……」

城戸「助けてもらったお礼がしたいし！

ちよっと待っててね……！」

飛鳥「あ、ちよっと……！」

……行っちゃった。どうすんだよ俺……。

今日の晩飯、餃子作ろうと思ってたのに。」

城戸の後姿を見てつぶやいた。

面白そうな人だ。

それが飛鳥の城戸に対する第一印象だった。

~~~~~

城戸「はい！出来上がり……！」

飛鳥の目の前のもの。それは……

飛鳥「餃子？」

城戸「ああ！俺、なぜかは知らないけど、餃子が得意なのは覚えてるんだ！」

さ、食べて食べて……！」

ゆっくりと口に運ぶ飛鳥。その感想は……

飛鳥「……おいしい……」

おいしいですよこれ……！」

城戸「へへへん。」

さ、食べよつか。」

城戸「そういえばさ、飛鳥くんって

一人暮らしなのかい？お母さんとかが見当たらないけど…」

飛鳥「ああ、それは…」

飛鳥は語る、自身の過去を。

いまだに信じられない、あの日のことを。

〃〃〃

あの日、俺は10歳だった。

家に帰ると親がいなかった。

家中を探すが、誰もいない。

母さんも、父さんも、姉貴も、ばあちゃんやじいちゃんまで。

俺をおいて外出したのかと思い、

あきらめて、とりあえず手洗いうがいをしようと思い

洗面所に向かった。

一応顔も洗い、顔を上げると…

母親「きゃああああ！！」

母さんの悲鳴が聞こえた。

俺は見たんだ。鏡の中で怪物に食われる母さんを…！！

飛鳥「それを警察に言っても信じてくれなかった。

鏡の向こうには、父さんのバツジ、母さんの指輪、姉貴のネ

ツクレス…。

家族みんなのものが落ちていた。」

城戸「…。」

飛鳥「ふふ…こんな話、城戸さんに話しても仕方がないんですけど。」

「

城戸は考え込んでしまった。

飛鳥「話を聞いてもらえただけ十分です。

ありがとうございます。」

そういつて立ち上がる飛鳥。

城戸「…飛鳥くん！」

飛鳥「？」

振り返る飛鳥。

城戸「俺は信じるよ、その話！」

たとえ誰も信じなくても、俺が信じるから！」

飛鳥「…！！」

飛鳥が止まる。

飛鳥「…ありがとうございます。」

そういつて、飛鳥は洗面所に向かった。

？ 城戸の目覚め、飛鳥の過去（後書き）

どうでしたか？

飛鳥の過去も一応明らかにしました。

次の話では、龍騎が登場する…かな？

？ 飛鳥の同級生たち（前書き）

飛鳥と同級生たちです

（城戸と飛鳥）

城戸「前回までのあらすじ！」

飛鳥「前回を読め」

城戸「ちよっww」





その男、海塔寺文武。

文武「珍しいじゃないか。こんな時間に来るなんて…」

飛鳥「実はな…」

（少女説明中）

文武「は…。それでその男の人を泣き止ませるのに5分。

土下座を止めさせるのに10分。」

飛鳥「マジで死ぬかと思った。」

そこへ、担任の天道総司がやってきた。

天道「ほらー、朝のHRを始めるぞ。」

（…）

時はたち、昼休み。

??「よう、飛鳥。」

飛鳥「清川原か。なんか用か？」

飛鳥の同級生、清川原月が話しかけてきた。

清川原「さつき、紅炎寺に香春が脅されてた。

止めてきてく「やだ自分で行け」…」

??「ならば私が行きましょうか。」

飛鳥「頼むわ。」

そこへ、鳥鋼真悟がやってきて、すぐに立ち去った。

??「あいつらも昔と変わりにないからね。」

清川原「おお、鏡也。お前も来たか。」

夜走鏡也。飛鳥のクラスの副会長である。

夜走「そういえばさ、さつきなんか新しい用務員雇って決まった

らしいよ。」

飛鳥「用務員…?」

なぜか寒気がした飛鳥。

その用務員とは一体誰なのか。

そして時は部活前へと移る…。

？ 飛鳥の同級生たち（後書き）

出ませんでした、龍騎。

でも次はあの竜が出ます！

お楽しみに！！

? 契約、ドラグレッダー（前書き）

飛鳥「前回は…」

『ファイナルベント』

ぎゃあああああ!?!」

城戸「今回は契約するよ!」

飛鳥「城戸…てめえ…」

城戸「ん?」

（オーラでドラグレッダー）

飛鳥「なんてやつ…ガク」

? 契約、ドラグレッダー

飛鳥「えーと、これとこれとあれとどれ…」  
部屋にいる飛鳥。

今は部活の準備をしているところである。

飛鳥「んーと…あ、これもだ。」

そんな飛鳥を、耳鳴りのような音が襲う。

『キーン…キーン…』

飛鳥「!?!?…なんだよ、この音…」

周りを見るが、何も無い。

音が出そうなものは、ドアぐらいなものだ。

飛鳥「幻聴か?!?…最近つかれてるからなあ。」

音を気にせず、準備を再開する飛鳥。

そこへ…

??!?「おい。」

飛鳥「ん?」

誰かが話しかけてきた。しかし。

飛鳥「なんだよ誰もいねーじゃん。」

近くには誰もいなかった。

??!?「こつちだ。」

声のしたほうを向く。すると…

窓ガラスに、男が映っていた。

飛鳥「!?!?」

驚き、後ろを見る飛鳥。しかし、誰もいない。

飛鳥「誰だ、あんた。」

…人間じゃないな?」

神崎「俺は神崎士郎。」

お前に力を与える。戦え。」

飛鳥「…は?」

神崎「ほらよ。」

投げ渡されるカードデッキ。

それを何とかキャッチする飛鳥。一緒に何かのカードも飛んできた。

飛鳥「えーと、…契約?」

神崎「このモンスターと契約しろ。」

神崎が言った直後、飛鳥の後ろの窓ガラスにに赤い竜が現れる。

…無双龍ドラグレッダー。

飛鳥「うおお!?怪物!?!」

神崎「そのモンスターと契約すれば、仮面ライダーになれる。

そして、ほかのライダーと戦え。」

飛鳥「俺に殺し合いをさせる気が!?!」

俺は人を殺したくない…!!」

それが飛鳥の本心だった。

自身が家族を殺された身。他人に自分と同じ思いはさせたくなかった。

神崎「別に殺すわけではない。この世界では、ライダーバトルのルールが違う。」

飛鳥「ルール?」

神崎「そうだ。」

まず、ライダーバトルは申し込まれたら必ずすること。拒否は認めない。

次に、倒されたライダーは戦っていた時間の記憶を失う。」

飛鳥「死なないってことか?」

神崎「そうだ。」

そして最後。

勝ち残れば、願いがひとつだけかなう。

最後のひとりとなったとき、そうすることが出来る。」

飛鳥「願いが、ひとつだけ?」

神崎「さあ、契約しろ!」

飛鳥「…。わかったよ。けど、あんたの言ってることが真実かはわ

からない。

すべてでたらめかもしれない。

もしそうだったら俺は、あんたを倒す！」

神崎「信じるもしんじないも、お前の勝手だ。」

カードをドラグレッダーに向ける飛鳥。

神崎「…契約、完了だ…」

その瞬間、あたりが真っ白になった。

あまりのまぶしさに、目を開けていられない飛鳥。

そしてそのまま気絶してしまふ…。

？ 契約、ドラグレッダー（後書き）

神崎「すべては優衣のため。

戦え、戦え！！」

次は変身するするかもしれません。

？ 変身、その後の言う言葉（前書き）

飛鳥「つしゃあ！」

城戸「それ俺の決め台詞…」



？ 変身、その後の言う言葉

??「あす…！飛鳥！」

飛鳥「うう…？」

飛鳥は目を覚ました。そして見た。

どアップで映る、好きな人の心配顔文武の顔を。

飛鳥「ぎゃあああ！？ふ…、文武え！？」

文武「なんだよその反応。人を化け物みたいに…。」

飛鳥「いや、すまん。」

で…ここは、部室、だよな？」

文武「何言ってるんだ。当たり前だろ。」

入って見たらお前が気絶してたからびっくりしたんだよ。」

飛鳥「俺が？気絶？」

飛鳥は思い出した。さっきまでのことを。

そして、それが夢ではないということを実感した。

なぜなら。

ポケットに、あのカードデッキが入っているからだ。

飛鳥「(さっきのは現実に起こったことなのか。」

にしても、仮面ライダーって、なんだ？)」

文武「おお…い、飛鳥」

飛鳥「んあ！？ああ、なんでもない。」

さ、部活の準備を進めるか！

あは、あははは…！！」

文武「きめえ。」

飛鳥「黙れ…？お前、首に巻きついてるの、なんだそれ。」

文武の首に巻きついた、白い糸。

それは後ろの窓ガラスへと続いていた。

文武「なんじゃこりゃ。」

手繰り寄せる文武。

そこへ…

??「ぐるるるる…」

飛鳥「!?蜘蛛のミラーモンスター!？」

文武「う…うわああ!」

窓ガラスへと吸い込まれた文武。

飛鳥「文武!…」。

神崎、お前、この力でライダーと戦って言ったよな？

この力、人助けに使ってもいいよな？

もう、俺は!

あのころのよわつちい俺じゃないんだ!！」

カードデッキを構える飛鳥。

その腰にベルトが巻きつく。そして…

城戸真司と同じポーズ、左腕を斜めに上げるポーズをとり、

叫ぶ!!

飛鳥「変身!！」

その姿が一瞬にして変わる。

…仮面ライダー龍騎の誕生である。

飛鳥「うっし!いくぜ、俺!」

そのままミラーワールドへ行った…。

？ 変身、その後の言う言葉（後書き）

いや〜。

龍騎は全話見たことがありません。（いまさらですが）  
変身後のせりふはどんなのがいいか。  
迷いました。

飛鳥「うつし…じゃだめか？」

城戸「普通につしゃあ…だろ？」

文武「宇宙キターーーーーー！！！」

紅炎寺「ガブツ！」

鳥鋼「俺、参上…！」

清川原「僕に釣られてみる？」

香春「さあ、お前の罪を数えろ！」

飛鳥「お前らまじめに考えろよ…！」

？ はじめてのたたかい…なのにつ！（前書き）

今日は文化祭の代休です

代休更新をすることがあります

飛鳥「うっし！」

城戸「じゃあ！」

? はじめてのたたかい…なのにつ!

ミラーワールド。

文武「ぎゃああああ!」

飛鳥<sup>飛鳥</sup>龍騎「あ、食われそうだなあ。」

助けてやるか、ヒーローだし。」

飛鳥がミラーワールドに来てみたもの、それは…。

糸でがんじがらめにされ身動きが取れない文武と、それを食べようとしているモンスターの姿だった。

龍騎「えーと、どうやって戦うんだ?」

文武「そこの仮面ライダーああ!!助けてえ!!」

龍騎「あ、はい。」

…よし、デッキからカードを抜き取ってみるか。」

飛鳥が取り出したのは、ソードベント。

龍騎「この竜の頭の部分に入ればいいのか?失敗してもいいや  
!」

『カチャ・ソードベント』

電子音とともに、どこからか剣が現われた!

龍騎「おりゃあああ!!」

蜘蛛のモンスターめがけ突進する龍騎。

そして…!

『ガキイン!!』

龍騎「え!?折れたあ!?

なんでなんで!?!ええい、剣が使えないほどに硬いってこと  
か!!」

この蜘蛛のモンスターは…硬かった。

そのため、剣が折れたのだ。

龍騎「なら、これはどうだ!?!」

『カチャ・ストライクベント』

龍騎の右手に、ドラグレッダーの頭が装着される。

龍騎「うおおおおー!!」

炎を吐き出す。その熱さに耐えられず、逃げていくモンスター。

龍騎「あ、こら待ちやがれ!

ああもう、逃げられたか。まあいい。

気絶しているこの馬鹿を現実に戻さないとな。」

現実。

飛鳥「ふあゝ。疲れた。ライダーって結構大変だな。

今日はよく眠れそうだよ。」

鏡の前に座り込む飛鳥。隣では文武が気絶している。

飛鳥「はあ……。疲れた。てか今何時?」

腕時計を見る飛鳥。その針は5時半を示していた。

飛鳥「げ!もう部活終わるじゃん。」

文武「うゝん……!」

飛鳥「あ、起きた。」

あせる飛鳥の横で目を覚ました文武。

その体は飛鳥に寄りかかるようになっていた。

文武「あ、飛鳥?あれ、俺モンスターに食われそうになってそれか

ら……」

飛鳥「ああ、それなら赤い龍みたいな仮面ライダーがお前を助けてくれたようだぜ。」

文武「まじで!?え、あの時見た仮面ライダーは本物だったのか。

で、何で俺はお前に寄りかかってんだ?」

飛鳥「気絶していたお前が悪い。もう部活終わる時間だぞ?」

文武「ウンダドドドドコロドーン…！」  
最後に何を言っているのかわからない文武だった。

? はじめてのたたかい…なのにつ! (後書き)

やりたかったこと

折れたあ!

です。

蜘蛛のモンスターは

異様に硬いです、はい。

次回は飛鳥の学園生活をお送りします。



？ 同級生にはまともなやつがない気がする 前編（前書き）

飛鳥の学校生活と

城戸の用務員就任をお届けします。

え？なんでそうもすんなり決まったかつて？

なんとなくです、校長の気まぐれです。

飛鳥「校長マジムッコロス」

城戸「やめて！校長のライフはもうゼロよ！」

先生たちの名前まで考えていると

作者の脳みそが沸騰するので

仮面ライダーの変身者の名前を使います。

？ 同級生にはまともなやつがない気がする 前編

午前8時。

この日は全校朝会の日である。

紅渡「えー、おはようございます。

今日から用務員をすることになった新しい先生を紹介します。

城戸「えつと、城戸真司って言います。

これからよろしく願います。」

紅渡校長の紹介で、城戸が出てきた。

飛鳥「デタアアアアア！！」

飛鳥は教室に帰った後に叫んだ。

そして飛鳥たちの担任、天道総司がやってきた。

朝の会が終わり、休み時間に。

清川原「あの用務員、どうやらイケメンのようだな。

ま、俺よりかっこいい人間は一人しかいないけどな。」

紅炎寺「またそれかよ。そんなのはもう耳にたこが出来るほど聞いたぜ。

次って何の授業だ？」

鳥鋼「えーと、数学です。」

香春「えー、僕苦手だな。だってさ、剣崎先生かつぜつ悪くて何言ってるかわからないし。」

文武「でもさ、その次には体育だし、いいじゃん。」

紅炎寺「むさ苦しい男子だけの体育にはもう慣れたからいいが、

たまには女子との合同授業をやらないかなあ。」

夜走「下心見え見えなこというなよ。」

飛鳥「それに一番むさ苦しいのはお前だろ。」

紅炎寺「orz」

一応書いておこう。

飛鳥は女子生徒である。6人の男子に囲まれてなぜ平気か。飛鳥は女子のことを信用していない。

おとし起きた事件がきっかけで、信用できなくなったのだ。そのとき助けてくれた6人とは仲がいい。

飛鳥「さ、2分前になったから席につかないとな。」

数学の授業、今日は剣崎先生がお休みなので自習である。

??「あゝすうゝかあゝ」

飛鳥「うげえ、この声は…!!」

飛鳥に抱きつく女生徒。

その生徒こそ、飛鳥が女子を信用できなくする事件を起こした犯人。

久保玲於奈クボレオナである。

久保「飛鳥、数学わかんない 教えて…飛鳥？」

飛鳥「キヤアアアアアアアアアア!!」

奇声を上げながら暴走。詳しく言うところ玲於奈を振り回しながら大回転。

久保「キヤー！飛鳥最高ー!!」

飛鳥「あの世へ飛んでけこのレズがあああああ!!」

そのまま投げた。きつと数秒後には教室に戻っているだろう。

飛鳥「ゼー、ゼー、ゼー…。」

肩で息をしつつ、席に着き、自習用プリントを始める彼女に、

全員「……(切り替え早すぎるよ……)」「」

と突っ込みを入れる生徒の姿があった。

火野「…パンツ何買おうかな…」

ちなみに自習の担当は火野映司である。

？ 同級生にはまともなやつがない気がする 前編（後書き）

大体いいかな？

剣崎はかつぜつが悪くて何言ってるかわかりません。  
おかげでみんなのテストはボドボド…ボロボロです。

剣崎「ゴゴノゴウジギバ デ・・・

ジャイ、ビヤリユニヨグン！」

飛鳥「…」

剣崎「チュギハキヤイチョージグン！」

文武「…ハア？」

剣崎「チュギハ」

紅炎寺「何言ってるかわかんねえよ！

オンドウル語はほかでやれ！」

剣崎「オンドウルラギツタンディスクー！？ウヘア…」

という感じです、毎日（笑い

？ 同級生にはまともなやつがない気がする 後編（前書き）

昼休みのお話です。

城戸が教室にやってきました。

さて、なぜでしょう？

1 道に迷った

2 校長の呼び出しを伝えるべくきた

3 お弁当を食べにきた

さあ、どれでしょう？

今日は飛鳥視点でお送りします。

？ 同級生にはまともなやつがない気がする 後編

飛鳥「…」

目の前にいるのは、俺の知ってる男性じゃない。

きよるきよるしながら弁当箱を持ち、いかにも馬鹿らしい男性を、俺が知るわけないじゃないか。

うお、こっち見た。

今すぐ逃げたほうがいいんじゃないか？

なぜなら、その男は…！！

今日の朝用務員として紹介された…あの！

城戸「おーい、飛鳥ちゃん」

城戸真司だからだ！てかちゃん付けするな気持ち悪い！

城戸「いやさ」この校舎分かりづらくてさ」

飛鳥ちゃん見つけてなかったらどうしようかと思ったよ。」

だから、人の話を聞け！ここで弁当を食べようとするな！

あっちへいけえ！俺に近づくな城戸真司！！

俺の昼休みを無駄にさせる気か！？

城戸「そうだ。夜走くん、だっけ？その子見てないかい？」

鏡也のことか？あいつがどうかしたのか？

城戸「校長先生がその子を呼んで来いってさ。」

ああ、んじゃおれが伝えておくからどうぞあなたはここで弁当を食べていてください。

城戸「マジで！ありがとう。じゃ、よろしくね。」

~~~~~

飛鳥「はあ…」

大きなため息が出る。それも仕方がない。

夜走鏡也に校長の伝言を伝えた後、俺の後をついてきていた久保玲

於奈を振り切り。

その後紅炎寺蓮に脅されていた香春陽太を救出し、ルナリストこと清川原月を一発殴り。

さらに鳥鋼真悟に明日の日程を聞き出し、それを海塔寺文武に教えてからここまでできたのだ。

俺は一人でいる時間が好きだ。

いつもこの3階廊下から青空を眺める。

たまに、調理室で津上翔一先生と天道総司先生が謎の料理対決をし、その料理を食べた野上良太郎先生がおいしさのあまり気絶するのを笑ってみたり。

ごくまれに、五代雄介先生と火野映司先生の旅話を聞いたたり。

（ただしあの二人の話は長い。長すぎるから俺は抜け出して逃げる）
運のいいときは、左翔太郎先生とフィリップ先生の漫才を見れる。

先生も個性的だが、俺の同級生も結構個性的って言うか、なんていうか。

まず、清川原月はナルシスト。ライバルは門矢士先生。（自称）

俺は門矢先生よりは、安達明日夢先生（仮）の方がカッコいいと思うけどな。

次に紅炎寺蓮は熱血やるうだ。あいつの周りだけ、温度が5 高い。

やけにハイテンションなうえ、暑苦しいから、いい迷惑だ。

それから香春陽太。あいつは気が弱すぎる。

しかしあいつがマジギレすると、大変なことになる。

マウントポジションで殴られるどころの話じゃない。もっとひどいぞ。

あと鳥鋼真悟。彼は誰に対しても敬語。そして超真面目。

あいつのお父さんは元総理大臣、お母さんは元警視總監だ。

うらやましいぜ。そんな超名誉なお母さんを持つなんて、あ、お父さんも。

あとは…久保玲於奈。あの女は腐ってるって表現が正しい。

あいつに襲われて俺は女子を信用できなくなっただけだからな！

最後に…、海塔寺文武。あいつは俺の幼馴染だ。

幼稚園のころから変わってない。変わったのは声ぐらいだ。

いつもちよっかいを出してきて、俺が仕返ししようとするときちよこまかと逃げ回る。

そんなあいつが俺は憎めない。昔から、そう。

俺に個性なんてないな、よく考えてみたら。

いつも一人でいる、おかしな女生徒。

それが俺の肩書きかな？フッフ、それがお似合いだよ。

あと。仮面ライダーに変身できること。

そういえば、城戸さんが来てからそんなに出てないな。

つて、一日も経ってないのに何を言うか俺よ。

ほかにライダーはいるんだよな。

出会ってみたいぜ、ほかのライダーに。

あれ、そういえば俺のライダーの名前は何だろう。

俺が決めちゃおうか！

うん…。赤い龍、その炎をまとう騎士…。

そうだ、龍騎にしよう！

かっこいいじゃん、龍騎！

~~~~~

一人でそんな思案に陥ってから早30分。

昼休みはあと、20分ある。

ヒマダナー、チヨーヒマダナー。

そのとき、俺の口を何かがふさいだ。

飛鳥「!?!」

??「ハア、ハア、ハア…」

かなり息の荒い、何者かが、俺の体を引っ張り、どこかへ連れて行くこととする。

体格的に相手は男か！

ということとは…、まさか!?!?



??「ハア…ハア…ハア…」

まずい、力が強い！

??「ハツ!!」

飛鳥「むぐうううう!!」

俺の意識はそこで消えた。

強烈なみぞうちが、俺を襲ったのを最後に。

？ 同級生にはまともなやつがない気がする 後編（後書き）

ふう、やっと終わった。

飛鳥の独り言劇場です。

最後に飛鳥は気絶してますが、

どうなっちゃうんでしょうね？

あっち系にはいきませんよ、絶対。

次回をお楽しみに。

？ 秋山蓮と変態と城戸は何者か（前書き）

続きです

飛鳥「前回俺を襲ったのはお前だろ？」

??「にやあ」

今回も飛鳥視点です

？ 秋山蓮と変態と城戸は何者か

飛鳥「うう…？」

俺は目を覚ました。別に縛られてるとかされてなかった。

たぶんここは、進路室。先生も滅多に来ない、三学年棟の隅にある一室だ。

あれ？俺は確か、教室前にいたはず。

どうして俺がここにいるか、思案に陥っていたら。

??「やつと目を覚ましたか。」

謎の男の声がした。コートを着た、男性。

短い髪の毛と、淡々とした口調。

秋山「俺は秋山蓮。お前、城戸真司を知っているよな？」

城戸真司、ああ、俺の家の前に倒れてた馬鹿だな。

飛鳥「その人がどうかしたのか？」

秋山「そいつの居場所を知らないか？」

この世界に来たライダーを確認しているのだが、城戸だけ見つからないんだ。」

ん？ライダー？この世界に来た？

飛鳥「城戸さんなら、記憶喪失…っていつでも簡単な。だから、俺の家にいるけど。」

今日からこの学校に用務員として働いているけど？」

秋山「用務員？…フン、あいつにはお似合いだな。」

わかった。あいつもこの世界にいるのか。」

飛鳥「さっきからこの世界って言うてるけど、あんたら何者なんだ？」

記憶喪失の城戸さんには聞けなかったこと。

この男なら、何か知っている気がする。

俺の直感が、そういつてるんだ。間違いない。

秋山「話すと長くなるぞ。」

飛鳥「別にいい。」

~~~~~

秋山「俺たちはこの世界の住人ではない。」

もともと別の世界にいたのだが、神崎士郎の暴走により、この世界に飛ばされた。

俺のほかにも、浅倉威、北岡秀一、手塚海之。

そして城戸真司。この5人がこの世界にいる。

神崎士郎の目的は、妹、神崎優衣の命を救うこと。

そのために、ライダーバトルを起こしている。俺もライダー。ただし、俺たちにこの世界のライダーバトルに干渉する権限はない。

だから、この世界の戦いは止められない。城戸にもな。」

飛鳥「ということは、城戸さんもライダーなのか!？」

あんな馬鹿な人が!？」

秋山「そうだ。」

…もうこんな時間か。俺は失礼する。」

飛鳥「ちよつと待て、俺を襲ったのはあんたなのか?」

気になっていたこと、俺を襲った人物は誰か。

そのことを問うと、その人は軽く笑い、こういった。

秋山「そんなわけないだろう?」

おまえのうしろにいる男だ。

そいつには、お前に質問が終わった後、

お前を好きなようにしていいとあってある。じゃあな。」

飛鳥「はあ?」

後ろを見る。そこには、学年一変態といわれる、イズミノリユキ出水紀之がいた。

その息は荒く、今にも襲い掛かってくる勢いだ。

出水「お前を…食べてやる…」

飛鳥「え、ちよ、ま…。」
出水「うがああああ!!」

ぎゃああああああああ。

進路室に響く飛鳥の悲鳴。しかし進路室は完全防音のため、その声は誰にも聞こえなかった。

くくく

その後、進路室から汗だくの飛鳥と、ぼっこぼこにされた出水紀之がみつかったとか。

その後。

飛鳥「ううう…」

出水め、俺を襲いやがって…。

久保よりはまじだったか、一応俺は女…。

かなりびっくりした、いやまじで。」

ドラグレッダー「ガオン」

飛鳥「そうだよな、お前もわかってくれるよな。」

放課後、鏡と話している飛鳥がいたとかいないとか。

？ 秋山蓮と変態と城戸は何者か（後書き）

城戸が別の世界から来たことを

飛鳥に知らせる秋山蓮。

しかし勝手に人を好きなようにしていいといった
彼の頭を解剖したいw

？ モンスター再来と城戸の変身（前書き）

遅くなりました！！

学校生活が案外忙しくて

更新が遅くなりました

すいません

？ モンスター再来と城戸の変身

飛鳥「ぎゃあああ!!」

久保「あはは、飛鳥」

今は体育の授業中。

持久走をする女子の中で、ひときわ速く走っている生徒がいた。

一人は春野飛鳥。

彼女の後ろに、久保玲於奈。

周りには誰もいない。

2時間かけて、10?走るとこの授業。

襲うにはもってこいだ。

飛鳥「うわあああ!」

久保「うふふん、飛鳥あゝ!」

全力疾走。走るのが苦手な彼女に、だんだんと近づく影。

久保「フーかまーえたー」

飛鳥「ふぐほあ!？」

飛鳥にダイビングし、そのまま倒れこんだ。

久保「ここなら、誰もまだ来ない……。楽しみましょ?」

飛鳥「ぎゃあああ!!」

飛鳥、大ピンチ!!

周りには、鏡はない。つまり、ドラグレッダーは出てこれないのだ。

久保「うふふ、このトレパンは脱がすのに最適なのよね。」

飛鳥「やめろ、やめろ!!触るなこのレズ!!」

抵抗を試みるも、彼女の今の力は100万馬力。

抵抗も無駄と化した。

久保「うふふふふ……。いいじゃない。私はあなたが欲しいの

おおお!!」

飛鳥「誰でもいいから助けてくれー!」

叫ぶも、その叫びは虚しく木霊し、そのまま消えた。

と思つたが。

城戸「大丈夫ですか！？……つて飛鳥ちゃん！？」
現れたのは城戸真司。

飛鳥「城戸さん！助けて！！」

久保「あらあら、イケメン用務員の城戸真司さん。何か用？」

城戸「いや、悲鳴が3回聞こえたから、何かと思つてさ。」

飛鳥「最初に聞こえた時点で助けに来いよ！」

突っ込みがため口になつたが気にしない。

城戸「なんだ、プロレスしてるのか。じゃあ、続きをお楽しみに。」

飛鳥「助けるー！！」

そのとき……。

『キーン……キーン』

飛&城「！！」

二人に聞こえた金属音。

しかし、玲於奈には聞こえていないため、襲う続きをしようとする。

城戸「（この近くに鏡はないの！？）」

飛鳥「（くそ！こいつにはわからないんだ！モンスターの気配が！

！）」

次の瞬間！！

飛鳥「なっ！？」

久保「きゃあ！？」

二人を包む白い糸。

二人の頭上に、突然鏡が現れたのだ。

飛&久「「きゃ（わ）ああああ！！」」

そのまま引きずられた彼女たちは鏡に消えた。

城戸「飛鳥ちゃん！！……くっそ〜！モンスターめ！！！」

ポケットから手鏡を取り出した彼。それを地面に放り投げた。

城戸「こうなつたら、俺も変身するしかない！」

さらにポケットからカードデッキを取り出し……。

城戸「変身！！」

そのまま龍騎へ変身した。

ミラーワールドへ乗り込んだ彼。

飛鳥たちはどうなってしまっのか。

？ モンスター再来と城戸の変身（後書き）

まさかの

プロレスに勘違いした城戸。

読んでくださり、

ありがとうございます！

続きをお楽しみに！

？ 2人の龍騎と2つのデッキ 前編（前書き）

ぐおおおめんなさあああああいい！！！！

はい、言い訳という名の釈明は
後書きでします、

はい。

すみません・・・

？ 2人の龍騎と2つのデッキ 前編

真司「っしゃあ！いくぞ……。」
久々の変身。久々のミラーワールド。真司が変身を終えたころ、飛鳥達は大変なことになっていた。

飛鳥「つく……。くそ、このクモ野郎……。」
必死にもがき、糸を解こうとする飛鳥。隣の玲於奈は気絶している。クモ「ギョルルルルル……。」
腹の音が、鳴き声か。今の飛鳥にとってはどうでもよかった。きっと、このクモ野郎は玲於奈から食うつもりだ。

飛鳥「ドラ……!?!」
もういつそドラグレッダーを呼ぼうとしたとき、クモ野郎に飛び掛った者がいた。

龍騎「飛鳥ちゃん、大丈夫!?!」

飛鳥「え、龍騎!?!?……っ！かその声、真司か!?!」

龍騎「今、助けるから!?!」

『アドベント』

ドラグレッダー「ガオオオオオオン!?!」

飛鳥「今度はドラグレッダー!?!」

いろいろと大変な飛鳥。自分と同じ姿のライダーが現れたかと思えば、自分の契約モンスターと同じモンスターが現れる。啞然としている間にも、ドラグレッダーは器用に糸だけを燃やしていた。

龍騎「あそこの鏡へ走って、早く!?!」

飛鳥「んあ!?!?体が……。そういうことが、今行く!?!」

溶けているような体。彼女は一瞬で理解した。生身でここにいれば、消滅してしまうと。

彼女は駆け出す。鏡へ向かい、玲於奈をお姫様抱っこしたまま。

クモ野郎が逃がすまいと、糸を吐き出すが、龍騎が庇う。

<現実世界>

飛鳥「ッ!!」

現実に戻ってすぐ、彼女は柱にぶつかつた。幸い、2人とも消滅していない。

玲於奈「うーん……」

ただし、玲於奈は気絶したままだ。

飛鳥「俺も戦わなきゃ……!!」

体は重い。何しろ先ほどまで消えかけていた体。鞭打つてでも、モニターは倒さなければならぬ。

デッキを構える手が震える。体はもう、悲鳴を上げている。

飛鳥「……変身!!」

龍騎となつた飛鳥は、ミラーワールドへと再び突入する。

<ミラーワールド>

龍騎「くそっ、硬い!! さっき剣も折れたし。」

『ストライクベント』

剣が折れて困っていた龍騎（真司）。その耳に、無機質な声が聞こえた。その方へ向いたとたん、目の前を炎が過ぎていく。

龍騎「うおわっ!?!」

龍騎「あすか……」

龍騎「ウエ!? 俺!? でも、黒くないからリュウガじゃないし……

。誰!?!」

対面する2人の龍騎。

協力するか、勝負するか。

戦わなければ生き残れない！

? 2人の龍騎と2つのデッキ 前編(後書き)

言い訳タイム

11月3日

更新

その後・・・。

ほかの作品を作成。

すると・・・。

月日が経ってしまった!(ででーん

今月は受験もあるので

更新が遅くなるかもしれません

けれど、今回みたいにはしません!

少なくとも1ヶ月に1回は更新します

本当にすいません!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3968x/>

仮面ライダー龍騎～混ざり合う2つの世界～

2012年1月6日16時48分発行